# 備陽史探訪

第40号
発行
備陽史探訪の会
福山市多治米町5-19-8
TEL(0849)53-6157


## 新年度を迎えるにあたって

会長　神谷　和孝

そろそろ、新聞やテレビで桜前線のニュースが伝えられているようになり、寒い冬を乗り越えたと言う安堵感を感じます。会員の皆様も同じようにお考えではないでしょうか。

春先と言えば、いつも二月の下旬に備陽史探訪の会の総会が開かれ、春風の訪れとともに、新らしい計画にもとづいて活動を開始すると言うパターンを繰りかえして、今年で八年になります。どんなことがらでも十年近い歳月を同じパターンを繰りかえすとマンネリ化すると言う図式があります。

本会の現状を考えてみたとき、矢張りマンネリ化しているなと思われる部分と、ハッキリとマンネリ化していないと打ち消し出来る部分とがあります。

ここ数年、総会を迎える前に、必らずと言ってもいい程、会のあり方、活動内容をめぐって役員の間で厳びしいやりとりが展り広げられてきました。ともに会を大切に思うが故の意見交換ではありましたが、批判は大切にしながら、新年度の活動計画をたて、計画は百％に近い程、やりとげて来ました。

役員の前向きの姿勢と、会員の協力あってこそと思います。

会員の数も百五十名近い数をキープしてきたことを考えてみても、備陽史探訪の会って大変な会なんだなあと再認識せずにはおれません。百五十名近い会員を抱えて、マンネリ化しているなどと言ってはおれません。

ただ、古くからの役員の感覚が、例会を積み重ねて実施していく中で、行事に慣れていって、発会当時の生き生きとした感触が感じられなくなったと言うことは否定出来ない事実だと思います。

役員の中のマンネリ化した気持を打破していくには、活動の中で解消していく他はないのではないかと思います。

いずれ、皆様のお手許に今年度の総会の報告が届くと思いますが、総会の中で承認された活動方針の中でもあるように（参考までに次に記しておきますが）

①楽しめ、勉強出来る会にする。
②会員相互の人格を尊重しあい、民主的に運営される会にしていく。
③市民に開かれた行事を行う。
④無理のない計画をたて、相互に助け合って、楽しい行事にしよう。

この方針にのっとって行けば、必らず、会の行事が、前向きに進められ、行事に参加した一般会員、役員、ともに楽しめるようになるのではないかと思います。

一般会員の方々の御協力をよろしくお願いします。

## 一九八七年度 城郭研究部会活動報告

一月一六日　第一回中世を読む会　於市民会館　参加一五名
同一八日　新年会　於月見櫓　参加九名
二月八日　芦田町利鎌山城跡実測調査　参加五名
同一五日　駅家町椋山城跡実測調査　参加七名
二月二〇日　第二回中世を読む会　於市民会館　参加一三名
三月二〇日　第三回中世を読む会　同　参加一四名
四月一七日　第四回中世を読む会　同　参加一二名
四月一九日　山内首藤氏関係史跡見学会　参加一五名
五月一〇日　芦田町利鎌山城跡実測調査　参加五名
同一五日　第五回中世を読む会　於市民会館　参加九名
六月一九日　第六回中世を読む会　同　参加六名
七月一七日　第七回中世を読む会　於中央公民館　参加一二名
同一九日　城郭研究部会の集い

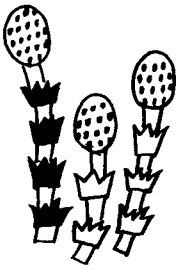
於サントークカルチャーセンター　参加二〇名
八月二一日　第八回中世を読む会
於市民会館　参加八名
九月一八日　第九回中世を読む会
同　参加七名
一〇月四日　草戸周辺山城調査
参加三名
同一六日　第一〇回中世を読む会
於中央公民館
参加一〇名
一〇月二五日　講演会「中世再発見」
於月見櫓　参加二五名
一一月一日　本庄町の山城踏査
参加四名
同　一五日　芳井町の山城調査
参加一〇名
同　二〇日　第一一回中世を読む
会　於中央公民館
参加七名
一一月二三日　神石郡油木町の中世
遺跡調査　参加一二名
一二月六日　バスツァー例会「藤井
皓玄と神辺合戦」
講師　立石定夫氏
参加四五名
同　一七日　第一二回中世を読む
会　於中央公民館
参加五名

## 中世を読む会 参加者募集

**城郭研究部会**

本部会では昨年度に続いて「中世を読む会」を月一回開催致します。内容は備後中世文書の輪読会です。室町、戦国時代に興味のある方ふるって御参加下さい。雑誌の発刊、山城調査等多くのイベントを計画しています。

第一五回中世を読む会
四月一五日（金）午後七時より
於中央公民館
テーマ　山内首藤家文書を読む
参加自由、無料です。
問合せは田口まで



## 福山城三百七十年
### ――近世の神辺城はどんな城？――

吉田　和隆

**（ごあいさつ）**

広島城は来年が「築城四百年」にあたるようで、去年から中国新聞に連載が出たり、（「広島城400年」）テレビに写ったりと、日陰の身だった（と思う）広島城にも陽が当たり始めています。とは言え、来年は築城に着工した年（1589年）から400年目であって、完成した時（1591年）から400年がたった訳ではないのです。

普通生誕〇〇年といえば、出産した年から〇〇年目であって、妊娠した年からではありません。だから「築城400年」というなら3年後の1991年こそがその年でしょう。多分来年の海と島の博覧会に、広島城もあわせたのでしょうナ。

それはともかく、我が町の福山城は最近は話題になる事もなくマスコミにものらず、低迷する県東部を象徴するかのようです。西の広島城に対抗して福山城にも陽をあてて行きたいものです。

というわけで、会報に何回か、福山城について連載して行きたいと思います。

**（神辺城　―福山城前史―）**

福山城が築かれる以前、備後の中心的な城は神辺城でした。中世の長い長い時間、備後の国の要衝として存在し続けたこの城は、その歴史の終わり頃、毛利氏や福島氏の手で中世の山城から近世的な平山城に造りかえられたと思われます。しかしその姿を伝えてくれる信頼できる絵図や記録は皆無で、遺構やあまり信用できない江戸時代の地誌等から想像するしかありません。そこで近世神辺城の山城の部分について想像図を描いてみます。

塀は鉄砲が使われるようになると、中世的な棚や板塀では銃弾を防げないので、全て土塀にします。

櫓は山の上なので二階櫓のみ。山上にそびえる櫓は、二階でも充分に威圧感を与えます。三階以上にしても眺望が良くなる訳ではなし、かえって落雷や大風に対して不利になるだけです。三階櫓が神辺城にあったとすれば、多分ふもとの平城部分にあったのでしょう。

櫓や塀の外壁は下見板張り。毛利氏、福島氏の本城の広島城や、同じ備後の三原城は下見板張りだし、福

山城のような漆喰を塗る手法は時代がかなり下ってからの物です。

門は高麗門と冠木門。神辺城から移建されたと伝えられる門には渡り櫓門はありません。だから主要な門は高麗門、ほかに簡疎な冠木門だったと推測します。

石垣は現在ほとんど見当たらないので、多分補強用に所々使われた程度で、あとは山の斜面をその儘利用したのでしょう。

天守閣は無かったと思います。他城を見ると、岡山城の大納戸櫓は沼城の天守を移したと伝えられます。他にも彦根城の西の丸三階櫓は小谷城、山崎曲輪三階櫓は佐和山城の天守をそれぞれ移建したとの伝承があります。

このような例から、もし神辺城に天守があれば、当然福山城に移築され、その伝承も残っていると思われます。しかしそれはありません。神辺城には天守閣的な用途の二重櫓はあったかもしれないけれど、はっきり天守閣との名称を持つ櫓はなかったと思います。

## 八十八年度総会より

本年度の総会は二月二十一日に約三十名の出席により開催され、規約及び役員、行事計画等が承認されました。先日お届けした資料に付け加え当日の議事録を要旨のみご報告致します。

。会計監査より

金銭の出入りは問題ない。「山城志」について発行部数、回収部数を明らかにしてほしい。

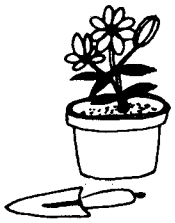
。副会長より

「山城志」は三月末迄に整理する。会の「財産目録」を作成中であり合わせて報告する。

。会長より

「山城志」は名称から山城の研究のみ、のイメージがあるが、主に部会の研究発表の場として続いて発行したい。

規約については先日の役員会を経て総会に提案していることを含み審議して下さい。



## 古墳部会

※本年度の目標…「資料の蓄積を」

活動計画

| | |
|---|---|
| 3月 | 合の坪古墳の測量調査 |
| 4月 | 親と子の古墳めぐり（日付は会の役員会で決定） |
| 5月 | |
| 6月 | ①勉強会（10～12月予定の事前勉強会）<br>②資料館めぐり<br>③古墳ガイドブックの完了 |
| 7月 | 会員対象の古墳めぐり（発掘現場も含めて…） |
| 8月 | |
| 9月 | |
| 10月 | ①測量調査<br>②分布調査<br>③資料館めぐり |
| 11月 | |
| 12月 | |
| 1月 | 年間の活動内容の整理とまとめ |
| 2月 | |

歴史民族研究部会

## 今年の活動計画概要

種本　実

会員の皆さん〝鞆鉄道〟をご存知でしょうか。そうです。バス会社の名称ではなく、鞆ー福山間を大正二年から昭和二十九年迄、約一時間をかけて走っていた、鞆軽便鉄道のことです。

新幹線、高速道路が陸上交通の主流の今日、我歴民研では〝鞆鉄道〟の軌跡を訪ね、当時を知る人に尋ね、できるだけ多くの資料を集め、できれば〝懐しの鞆鉄道を偲ぶ集い〟を催したいと考えています。

四月から本格的に活動しますので、このような活動に賛同される方、鞆鉄道についてご存知の方はご連絡下さい。会員の皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

福山市川口町三九八ー十三
TEL　五四ー二〇四七
種本　実

## 落葉の舞

### 油木史跡探訪

永聖寺の階段を見上げると、門の上に鐘楼があり、門の正面に、新しい蛍光灯が一つ、参拝者の足元を照らす為だけど、木の傘をつけた裸電球か、行燈の方が風情があるなあと思いながら、境内へ入りました。本堂は、とても古くて、特にわたしにとって嬉しかったのは、虎と鶴の屏風でした。

ふすま絵だった虎は、まるで生きている様で、毎日、枕もとにおいて、

お休みなさいと一緒に寝るのなら、夢みごこちがいいのにと思いつつ…出内先生に感謝。くわしく調べて下さったお話、幾度となく車を止めての冷たい風の中での笑顔は、心暖まります。

森の中のお墓を見て、落葉のなかを歩いている時、「白秋のからまつ林を思いだすわ」と言ったら、後藤さんが「島倉千代子の哀愁のからまつ林なら知ってる」って言いました。詩も歌も同じですものね。メロディーがあるだけいいかもしれない。行く途に曲り道あり。

「あの辻に、かすりの着物をきせて女の人を立たせたいね」と、後藤さん。

わたしは、仲代達矢、扮する落武者を、落葉舞い散る中にすわらせてみたい……と、想っていました。ロマンチストは、どちら。

子供の頃、野山を、かけ巡っていたわたしにとって、昔とった杵柄みたいなもので、城山に登るときは、山の険しさよりも、楽しさが先に立ち、幾可学的な模様の岩肌や、薮柑子の可憐さ、腐養土の包い、木の皮のざらつき、すべてなつかしく、連れてきて下さった皆様に、只々、感謝です。

先日は、中世を読む会にも行かせて頂き、お話を聞いているだけでも目の前に、情景が浮かぶようで、一貫文で米が二石買えるという、わかりやすい説明、森と脇から森脇になったと聞いて、なんだか胸ワクワクでした。

時間に追われた生活をしていると、ゆったりとした話し方の会員の皆様の様子を眺めていられるだけでも、心が落ち着きます。

八幡宮で、膨大な量の般若心経を見せてもらい、先生に古い文書を読んで頂き、又、脳が熱くなりました。史実や言いつたえと、文書が合致した時、それは口では言えない喜びだと思います。延々と続いてきた時の流れは、万物を越えて過ぎてゆきます。わたしは、秋に萩の掛軸を出す時には、花が全部おちてやしないかと、そろそろあけてみます。端午の節句に飾った掛軸の若武者にも心ひかれ想いが伝わって、絵から抜けて来ないかしら…と、四季折々、夢半分の生活を送るのも楽しいものです。最後に河原での昼食、せせらぎを聞きながら、どうして二食持って来なかったかと後悔しきり。紅葉した木々は、河原の石に恋した恥じらいの類？。木にも石にも、すべての心があって、わたし達も見つめられていましたよ。

再三、車をとめて、足が疲れたでしょう。

運転者の皆様、本当にありがとうございました。こころをこめて、合掌。

## 第六回　親と子の古墳めぐり

例年通り、五月五日に親と子の古墳めぐりを実施致します。

要項は次の通りです。

主催　備陽史探訪の会

事務局　福山市多治米町五―一九―八　田口義之方

TEL五三―六一五七

日時　一九八八年五月五日（木）

（小雨決行）

AM8・30　駅前釣人像前集合

PM4・00　福山駅解散

※当日雨天の場合五月八日（日）に実施

参加費　大人　八〇〇円

小人　五〇〇円

（交通費、資料代、保険等実費）

見学場所　福山市赤坂町、津之郷町を中心とした古墳

（本谷一号古墳、坂部四号古墳、すべり石古墳、いこうか山古墳）

参加申込　往復ハガキに参加希望者名と各自の年令、住所、電話、参加者同志の関係、（小学生の場合、学年を）明記の上四月二十八日まで前記事務局まで申込みの事。（但し、先着順に百名程度になり次第申込みを締み切ります）

参加資格　約五Kmの行程を歩行可能な方、但し、小学六年生以下の児童については保護者の付添いを必要とします。

日程

8・30　福山駅　受付開始

9・00　バス乗車

9・30　津之郷小学校前に集合

10・20―10・40　本谷一号古墳見学

11・10―11・40　坂部四号古墳見学

12・10―12・30　水越古墳群

12・30―13・30　昼食

14・00―14・20　すべり石古墳見学

14・50―15・20　いこうか山古墳見学

16・00　福山駅帰着　解散

その他

※各自　弁当、飲物持参

※服装は山歩きの出来るものを着用してください。